

以身伝しんぶん

無視覚流鑑賞
広瀬浩二郎氏

関連イベント & 番外編

作品を挟んで 人と対話する鑑賞会

「以、身、伝心からだから、はじめてみる」の開催のなかで、障害のある人とともに楽しむ芸術鑑賞会が二度行われた。「高次脳機能障害のある人とともに楽しむ芸術鑑賞会」と「盲ろうの人とともに楽しむ芸術鑑賞会」だ。これら二つの共通点は、作品を挟んで人と対話しながら鑑賞会を行う点にある。ただ作品を見るだけではなく、「ともに」楽しむことがポイントだ。

「高次脳機能障害のある人とともに楽しむ芸術鑑賞会」の方法はこうだ。ひとつひとつの作品について、まずはじっくりと見て、そして手で触れる。素材の感触を感じたり、作者の気持ちを分析し



て、感想を参加者同士お互いに伝え合った。ひとりの感想に耳を傾けて「ふむふむ、なるほど」と相槌をうって、自分も素直に感じたことをみんなの前で発言したら「それも良いよね〜」などと応えてもらって、参加者ひとりひとりの発言に共感し合った。

また後日の「盲ろうの人とともに楽しむ芸術鑑賞会」でも、参加者から次々といろんな声があがり、その感想を共有し合った。たとえば奥村家住宅に展示された鎌田さんの人形を鑑賞したときには、「人間のパーツを持つ人形だけど、なんかホンモノとはほど遠いからちょっと変な感じ。だって人間は目が



飛び出たりしてないし、腕もこんなに細くないしな。」という感想が出た。また徳山さんの粘土作品に触れて「自分も作りたいな」と刺激を受けた参加者も。こんな風に、感想は自分が感じたことを自由に発言して良いものの。周りの人に自分の感じたことを伝え、逆に人の感想も聞く。これらの人との対話を繰り返していくたびに、ひとつひとつの作品ごとに味わう深みが増す。

ひとりで作品を鑑賞する時間も良いけれど、作品を挟んで人と対話する時間もまた濃厚。今回開催された二つは、どちらも障害のある人とともに楽しむ芸術鑑賞会だったが、障害のあるなしに関わらず、人と「ともに」芸術鑑賞をするときの楽しみ方の幅を拡大させた取り組みだ。

(記者 畑)

今回の展覧会では視覚障害のある方が作品を楽しめるようになつており、私も何度か視覚障害のある方と作品を鑑賞する機会を得ました。

その都度、肩に力が入った気持ちの「かきね」をヒョイと飛び越えさせてくださったのが広瀬氏の触常者宣言！五感の豊かな交



換、交流の醍醐味。「な〜んだ、私の好きな世界だ〜」そんなやわらかな言葉で失礼なのですが、広瀬氏が実際に私の目の前で今回のひとつの作品に触れて、紡ぎだされた深い深い言葉の数々「すごい！私の魂がうなりました。」

(記者 久保)



参加者とともに作品鑑賞をする広瀬氏

【記者クラブ番外編】 魂 動きました

湖南ダンスカンパニー
北村成美氏（ディレクター）

去年フランスナントでの海外公演で大成功をおさめられた、障害のあるダンサーが中心となる湖南ダンスカンパニー。今回その時の映像とお話、カンパニーのパフォーマンスもあるとの事で参加しました。カンパニーの紹介文には「メンバーの習慣から生まれた動



きが振付になり、振付が習慣になる」とあり、興味を引きます。実際の日の会場で私の前左右に揺らしておられる動きが振付になるのだそうです。なんと自由な発想・しなやかさ、いっぺんに肩の力が抜けた。公演の映像を見ても、叫んでいる人はたえず叫んでいるし、立ったままの人はずくと

立ったまま舞台を移動しています。それがプロの方の音楽との調和が保たれて何とも素晴らしい舞台になっていきます。立っている人の立姿の美しい事、叫んでいる人の力強い事、私は涙がふれていました。

人間の本質、魂を感じました。

(記者 久保)

【障害のある人たちとともに特性に合った芸術鑑賞会を開催しました】

高次脳機能障害のある人とともに楽しむ芸術鑑賞会
日時：10月26日（金）13：30～15：00

盲ろうの人とともに楽しむ芸術鑑賞会
日時：11月9日（金）13：30～15：00

【目が見えない人、見えにくい人、見える人で一緒に鑑賞を行いました】

「みる・きく・さわる 作品鑑賞会」
日時：11月23日（金・祝）13：00～16：30
講師：広瀬浩二郎（国立民族学博物館グローバル現象研究部）

【障害のある人の芸術作品の創造について講演を開催しました】

講演「障害のあるダンサーが中心となったダンスカンパニーができるまで」
日時：10月14日（日）14：00～16：00
講師：北村成美（湖南ダンスカンパニー ディレクター）



ボーダレス・エリア記者クラブInstagramアカウントはこちら
https://www.instagram.com/borderless_area_kisya_club